

野鳥だより

—北海道—

ISSN 0910-2396

北海道野鳥だより第212号

編集・発行 北海道野鳥愛護会

発行年月日 2023年6月21日

キクイタダキ



2023.3.17 帯広市 帯広の森

撮影者 吉川 健一（帯広市）



も く じ

少なかった鳥が普通に見られる今	札幌市北区 樋口 孝城	2
越冬したソデグロヅル ナベヅルと行動も	紋別市 大館 和広	4
美瑛岳で保護したコシジロアジサシの放鳥		
環境省東川管理官事務所 アクティブ・レンジャー 渡邊あゆみ		5
日高の浦河沖でアホウドリとコアホウドリの観察		
浦河探鳥クラブ事務局長 武内 秀仁		6
【野鳥情報コーナー】		
札幌のデントコーン畑にタンチョウ	札幌市北区 辻 雅司	7
伊達で亜種シロオオタカを観察	伊達市 鈴木 守	7
2022年度 北海道野鳥愛護会探鳥会記録 (2022.4~2023.3)		8
2023年度総会報告		11
探鳥会ほうこく/表紙の鳥		13
環境変化に伴う植苗ウトナイ探鳥会の終了に寄せて	日本野鳥の会苫小牧支部長 鷺田 善幸	15
探鳥会あんない/鳥民だより		16

※本誌に掲載する写真のカラー版は、当会ホームページ(<https://aigokai.org>)で閲覧することができます。

少なかった鳥が普通に見られる今

札幌市北区 樋口 孝城

水辺の鳥が好きな私は、自宅に近くてすぐ行ける水域をよく回ります。同じようなところを長年回っていると、かつてはあまり見られなかった種類の鳥だけれども最近では普通に見られるようになってきているものが少なからずいることに気づかされます。そのような鳥のうちから今回はカンムリカイツブリ、カワウ、ダイサギ、オオバン の4種について、野鳥関係資料を合わせ見ながら過去と現在をみてみます。学術報告のようなものではないので、関係資料の多くは出典を示していないことをご了承ください。

ダイサギ

シギ・チドリの季節がそろそろ終盤を迎える9月下旬、いしかり調整池では「今日はもうダイサギしかない」とまで言われるようになってきているダイサギですが、そんな時でも50羽近くいることはここ数年では決して珍しいことではありません。いしかり調整池のダイサギについては北海道野鳥だより第206号(2021)に書いてあります。ちなみに1978年に発行された「北海道の野鳥」(北海道新聞社)には載っていません。掲載可能な写真がまだなかったためでしょうか。

1992年11月28日の北海道新聞には「札幌にダイサギー創成川に純白の羽休める」という記事が掲載されています。写真撮影者は北海道野鳥愛護会(以下、愛護会)会員の新城久さんです。この記事には「北海道は生息域から外れており、発見されても迷鳥扱い」という野鳥関係

者によるコメントが付けられています。その後徐々に北海道各地での目撃が増えてきており、悪天候などによる本州方面からの迷行ということでは説明できないような状況になってきました。

北海道におけるダイサギの増加は、極東ロシアの沿海地方などで繁殖し、本州方面で越冬する亜種オオダイサギが渡りの途中で北海道を通るようになってきたためとされます。冬季、本州までに行かないで北海道で冬を越すものも出てきたようです。この傾向は今後も続くのではないのでしょうか。ただ、北海道には渡りの途中や越冬のために立ち寄るだけのことから、今のところ繁殖するという事にはならないだろうと思っています。



写真1. ダイサギとカワウ 2012.10 当別川下流河川敷

カワウ

写真1は2012年秋に石狩川と当別川の合流点付近の水場にいたダイサギとカワウです。こんな光景が見られることは2000年以前には思いもよらぬことでした。

北海道には縁のない鳥とされていたカワウが群れとなって飛来・目撃されるようになってきたのは2000年ごろからです。私の感覚としては、ダイサギのように初めはごく少数から年とともに徐々に増えてきたという経過ではなく、いきなり群れで飛来ということが多かったようです。初期は各地を通過というのが野鳥観察者の話題になったのですが、そのうちに渡島、宗谷、オホーツク、釧路管内などで繁殖地も確認されるようになりました。ほとんどいなかった状態から、あちこちでの繁殖まで、極端に言うところであつという間の出来事です。

悩ましいのはウミウとの識別が困難な場合があることです。最大の識別ポイントである嘴基部・口角付近の形状は近距離からはほぼ間違いなく見分けられますが、遠距離からは困難です。でも、春から秋、川や湖にたくさんいるのはカワウだろうと、かなりいい加減な感じで見えています。石狩川河口あたりではどうやらカワウとウミウが混在している様子です。かつてはウがいたらウミウとしておけばよかったのですが、近年は遠距離の場合には識別名人の判断に依存しなければならないようです。

オオバン

1977年から開催されている愛護会の11月のウトナイ湖探鳥会記録を見ると、オオバンの記録は2000年以前には1982年と1996年の2回しかありません。10回（10年）に1回という程度です。これが2000年代に入ると、ほぼ毎回（毎年）に近くなっています。個体数の記録はありませんが、このあたりでオオバンが増えてきたとみなせます。



写真2. オオバン 2017.7 札幌市モエレ沼

愛護会のモエレ沼探鳥会が初めて開催されたのは2007年4月で、もう普通にいたのですが数はせいぜい10羽程度で、オオバンがいたということで参加者に喜ばれる存在だったような記憶があります。その後、年とともに増

えてきました。少数ですが繁殖も行われるようになりました（写真2）。今や北海道でのオオバンの繁殖はごく普通のことになってきたようです。秋になるとモエレ沼では数百羽ほどが見られます。場所によってはオオバンだらけという光景も珍しくありません。繁殖期には各地に散らばっていたものが秋の渡りを前にして集まってくるのでしょう。

越冬個体も随分と増えてきたような感じです。主に水生植物を食べるので、河川・湖沼の不凍域であれば餌は採れそうです。全国的な個体数の増加や分布域の北上は地球温暖化のためということがよく言われますが、現段階ではあくまで考えられる要因の一つという程度にとどめておいた方がいいのではと考えます。

カンムリカイツブリ

かつては冬鳥として少数が飛来していた程度でした。1990年代、ウトナイ湖の資料によると11月頃にたまたま見られる程度で、数十年前にはかなり少なかったようです。増えてきたと私自身が感じ始めたのは10年ほど前からの冬の石狩湾新港においてです。近年は港湾内のあちこちで全部合わせると数十羽はいる感じです。冬期間は



写真3. カンムリカイツブリ 2017.8 札幌市モエレ沼

冬羽なので目立ちませんが、3月下旬ころには夏羽個体も出始め、春を感じさせてくれます。このころからは石狩川下流域でも随分と見られます。本州方面で見られる千羽単位の群れには遠く及びませんが、1羽見ただけで喜んでいた過去とは大きな違いです。

野鳥だより第187号（2017）に掲載された中田達哉さんによる「江別市越後沼でカンムリカイツブリの繁殖を確認」によると、北海道での初めての繁殖確認は2016年のサロベツ湿原のことだそうです。つい最近とっていいかもしれません。モエレ沼での繁殖は2017年です（写真3）。高島均さんによる宮島沼での幼鳥の写真は野鳥だより第210号（2022年）の表紙を飾りました。増えてきたということがそのまま繁殖につながるわけではありませんが、将来的にあちこちで繁殖し、あの独特なゼブラ模様の幼鳥が見られるようなことを楽しみにしています。

越冬したソデグロヅル ナベヅルと行動も

紋別市 大 館 和 広

2022年12月に3日間、紋別市のコムケ湖に出現したソデグロヅル（北海道野鳥だより211号に掲載）の消息は気になっていたものの、どこからも情報がありませんでした。常識的には釧路管内鶴居村とか大雪山を越えて十勝へなどと予想はしましたが、インターネットで検索してもヒットしませんでした。

2023年2月下旬に、湧別川で撮影されたようだとの情報が入りました。えー？見てませんよ私は、というのは私のフィールドはコムケ湖ですけど、冬はハクチョウとワシの越冬状況を観察するために、隣町のオホーツク管内湧別町の湧別川河口付近まで出かけるのが常となっているからです。この時期、湧別川は鳥の入る場所に限られていますので、そこを見ると大体把握できるはずですから。

それからも範囲を広げて見てましたが全然出会えませんでした。諦めていた3月3日、湧別町内の農家の飼料に付いていたハクチョウの群れをカウントしようとフィールドスコープをのぞくと、え？紅い脚？ ソデグロヅル（写真1）でした。真白な雪の中で見るとそれは美しかったです。もしかして日本で雪とソデグロヅルなんて撮影されたの初めてでないの？と思いました（まあ威張る訳ではありませんけど）。



写真1. 越冬したソデグロヅル 2023.3.3 湧別町

それから出かけるたびに探しましたが出会えず、4月に入ってガンの確認で走っていた時です。いましたよー、そうここに居たの、ここがお気に入りなのね。

ソデグロヅル（写真2）は3月とは別の農家の畑のデントコーンのサイレージに付いていました。農作業をしていた人に聞くと3月中旬から1羽で来ていたとのこと、その後にハクチョウとガンが来たようです。それからコムケに行くたびに立ち寄りしました。ソデグロヅルはいつもそこにいて、色々な姿を見せてくれました。鳴き声も何度か聞けました。タンチョウがトランペットならソデグロヅルはホルンのような丸くやわらかな声でした。



写真2. ソデグロヅル 2023.4.8 湧別町

風の強かった4月27日、いつもと同じように見に行くといつものが飛びました。何とナベヅル（成幼不明）でした。続いてソデグロヅルも飛び上がったのを見て、移動の時期が近いことを感じました（写真3）。そして29日が終認になりました。この間10回以上もソデグロヅルを見ましたが、これほど多くソデグロヅルを見た人は私だけかもしれません（べつに威張る訳ではないですけど）。



写真3. ソデグロヅル(右)とナベヅル 2023.4.27 湧別町

その後の5月3日にコムケ湖にマナヅル亜成鳥が1羽飛来し、私は4日に確認できました。昨年9月から、カナダヅル、ソデグロヅル、ナベヅル、マナヅルそしてタンチョウと短期間で5種のツルをコムケ湖周辺で見ることができたことに強運を感じます（べつに威張る訳ではありませんけど）。

湧別のこの辺りは不思議なところで、ミヤマガラスが毎年来ますし、コクマルガラスやホシムクドリも見えます。近年ミヤマガラスは周辺で越冬しているようです。詳しい調査はしてません。このソデグロヅルの噂は不明でしたが、湧別川河口域で越冬したと推測します。

美瑛岳で保護したコシジロアジサシの放鳥

環境省東川管理官事務所 アクティブ・レンジャー 渡 邊 あゆみ

2022年9月21日、大雪山国立公園の鳥獣保護区管理員の柳田和美さん（日本野鳥の会旭川支部長）が上川管内美瑛町の望岳台登山口から4時間ほど登った美瑛岳東斜面を巡視中に登山道上で動かなくなっているコシジロアジサシの幼鳥（写真1）を発見しました。

ケガをしていたり、弱っていたりしている個体がいても、野生動物の保護には法的な制約がありますが、環境省から国指定鳥獣保護区内の密猟防止パトロールや鳥獣の生息概況調査等を委嘱している鳥獣保護区管理員には「傷病による保護を要する鳥獣の保護」が認められています。



写真1. 保護されたコシジロアジサシ 2022.9.21 美瑛岳

この個体は激しい衰弱ではなく、翼をバタバタするものの飛び立たない状態でした。柳田さんは強制給餌をしたら元気になりそうと保護し、山の上から当所（環境省東川管理官事務所）に電話を入れてくださり、登山口で引き渡してもらうことになりました。

世界には1万種もの野鳥が生息していると言われていますが、私が同定できる種は大雪山でよく見られるほんの十数種。コシジロアジサシは見たことはもちろん、聞いたこともない鳥です。幼鳥にとってもはじめての渡りで、群れから離れ、さぞ心細かったことでしょう。不憫で一刻も早く渡りのルートへ戻ってほしいと思いました。

一晚、上川管内東川町にある事務所の玄関の段ボールの中で過ごしたコシジロアジサシ。心配しながら翌朝、段ボールを覗くと、キョロキョロと周囲を伺う様子が元気そうに見えたので、東川町内の水辺での放鳥を試みました（写真2）。

しかし、翼はバタバタするものの飛び立たず、自ら歩いて川に入って、しばらく川辺に浮かんでから、陸に戻ってきてしまうことを繰り返し、最終的に川岸にうずくまってしまうました。このままだと飛ぶことも、泳ぐことも、自力で餌を取ることもできず、衰弱が進んでしまいます。



写真2. 筆者が放鳥を試みたが… 2022.9.22 東川町

保護時に柳田さんが考えた通り、強制給餌で体力を戻してもらった方が良く判断し、環境省と苫小牧市が共同管理しているウトナイ湖野生鳥獣保護センターに運び、リハビリに励んでもらうことにしました。

センターでは獣医師に診てもらいながら強制給餌で体重を増やし、無事に体力を回復させました。リハビリゲージでは飛翔傾向が見られ、徐々に飛翔距離が長くなったため、8日間のリハビリ生活の後、苫小牧市の水辺で放鳥され野生に帰っていききました（写真3）。



写真3. 苫小牧市内の水辺での放鳥 2022.9.30
ウトナイ湖野生鳥獣保護センター撮影

収容したときは全く飛べなかったため、元気そうに飛んでいる動画を見て感動しました。

コシジロアジサシはアラスカ沿岸等で繁殖期を過ごすそうですが、それ以外の季節をどこで過ごしているかわからない、まだまだ謎が多い鳥なのだそうです。

あんなに軽くて小さな身体で厳しい試練が待ち受ける自然界に帰っていく野生の凛々しさ、清々しさに襟が正される思いがしました。

どうか無事に目的地にたどり着き、春を迎えていますように。

日高の浦河沖でアホウドリとコアホウドリの観察

浦河探鳥クラブ事務局長 武内 秀仁

2023年4月2日、日高管内浦河町(図1)の沖合40kmの地点でアホウドリ成鳥、幼鳥とコアホウドリが確認されました(写真1)。漁業者が撮影し、浦河探鳥クラブの会員に情報が伝えられたことで貴重な記録となりました。



図1. 浦河町周辺の海域

アホウドリは20年ぐらい前から釧路沖、根室沖、十勝沖など、道東での記録は多いようです。これらのことから、日高沖にもおそらくいるだろうという推測はできて、「死骸が流れ着いたのを知っている」という人がいたり、「船で沖に出たときに見た」という漁師さんがいたりという話は耳にするものの、これまで、真偽のほどははっきりしませんでした。



写真1. アホウドリの群れとコアホウドリ(右端)
黒い個体はアホウドリの幼鳥 2023.4.2 浦河沖

浦河探鳥クラブは2001年に発足しており、それ以降の観察記録を残していますが、アホウドリの記録はありません。

さて、今回の確認に至った経緯を述べてみましょう。浦河探鳥クラブは、グループラインを持っており、定例や個人の観察結果や情報を共有しています。そのグループラインに4月6日、会員のSさんから「アホウドリの確認があったようです」というメッセージが投稿されました。

撮影者は隣の日高管内様似町の漁師Nさんです。この時期、キンキ漁で夜中から出港し、撮影したのは朝の7時ごろだそうです。

会員Sさんの友人Aさんが、撮影者Nさんと懇意にしておられ、NさんがAさんに「天然記念物の鳥らしいよ」という説明を付けて写真を送り、Aさんが会員のSさんに

知らせました。グループラインのSさん情報を見た私(浦河探鳥クラブ事務局長)が、これはなかなか大きな出来事だということで直接、漁師のNさんに連絡を取りお話を聞かせてもらうとともに写真データを頂くこともできました。ですから、今回の確認は全くの偶然、そして地域のつながりから会員外の人々の撮影データが探鳥クラブの手元に届いたということになります。

撮影者Nさんはアホウドリをご存じで、4~5年前から浦河沖で見られるようになったということです。ただ、昨年まではコアホウドリが群れで10数羽、その中に2~3羽程度アホウドリが交ざっているという状態だったのが、今年はアホウドリが5羽以上、全身が「黒いの」(幼鳥)も多く見かけたので、珍しいなと思って撮影されたようです。

例年、時期はいずれも春先で、すぐ近くに近づいても逃げないそうです。写真2の右下に船べりが写っていますので、距離感はイメージできるかと思います。アホウドリの警戒心が薄いという点も納得です。



写真2. 警戒心が薄く漁船に近寄るアホウドリ
2023.4.2 浦河沖

今回の件の電話を通してNさんから「漁師仲間では『シカベ』という鳥なんだよね」というお話を聞いたときは、何のことかわかりませんでした。後になってインターネットの「アイヌと自然デジタル図鑑」で調べると、何と、アイヌ語でアホウドリのことを「シカベ」というらしいことがわかりました。

町の名「浦河」は「ウララベツ」(霧深き川)、隣町の名「様似」は「サンマウニ」(朽ち木のある所)、いくつか説はあるものの、アイヌ語が語源であることは間違いありません。こうした地名だけでなく、生き物の名も脈々とアイヌ語が生きて伝えられていることにあらためて驚きと感心を禁じえませんでした。

野鳥

情報コーナー

札幌のデントコーン畑にタンチョウ

札幌市北区 辻 雅司



タンチョウ 2023.3.25 札幌市北区屯田

道央圏でタンチョウ繁殖調査が実施され、繁殖分布が拡大傾向にあると報告されています。私自身も雪解けとともに3月中旬から再開した鳥見では、わずか2週間の間に、苫小牧市ウトナイ湖、千歳市長都沼、私の居住地の札幌市北区の屯田地区でもタンチョウを観察することができ、生息範囲が広がっていることを実感しました。

3月25日に知人から屯田にタンチョウがいるよとの連絡がありました。屯田地区と石狩市の境を流れる発寒川と新琴似通りが交差している札幌側には、デントコーン畑が広がっており、一部は刈り残されたままとなっています。タンチョウは写真のように刈り取られたデントコーンの株間に佇んでいました。

頭部から頸部に幼羽が残っているので亜成鳥でしょうか。刈り残された実を付けたままのデントコーンがあるので餌は十分にあり、デントコーンの畝間には安心して身を隠せるスペースがあり、風や雨もしのげるのでねぐらとしても利用できそうです。居心地が良かったのか10日間ほど逗留していました。どこかで伴侶を見つけ道央での繁殖につながるとよいですね。

近くでは片側2車線道路の工事が進められており、農地を走る間道は狭いので、タンチョウ目当ての人たちが大勢押し寄せたら困ったことになると思います。発寒川堤防では、散歩、ランニング、サイクリングを楽しむ方が多く、堤防からは遠くになりますがデントコーン畑は丸見えです。しかし、野鳥に興味のない方々は「こんな所にもタンチョウがいるのですね」程度の関心の薄さで、情報の拡散はなく心配は杞憂に終わりました。

伊達で亜種シロオオタカを観察

伊達市 鈴木 守



亜種シロオオタカ 2023.3.19 伊達市長和町

2023年3月19日午後1時半ごろ天気も良いので、コクマルガラスを探しに伊達市長和町の農耕地へ出かけました。当地には年に数回通っています。1時間ほど探していると4羽のカラスを見つけ車を止め双眼鏡を覗くと白っぽい猛禽の姿がありました。もしかするとシロハヤブサ? 写真を撮影し、野鳥のことでお世話になっている方へスマホでカメラのモニター画像を送ると「オオタカですよ…。やけに白いのでシロオオタカかも? 珍しいのでたくさん撮影した方がいい」と教えていただきました。

凜々しい姿に鋭い眼光、捕食していたマガンの上に乗る、カラスの攻撃をかわしながら大きく動くこともなく静かな時間が流れました。約40分後、対向車の走行音に驚き飛び去って、その後戻ってくることはありませんでした。お世話になっている方に再度写真を送り確認してもらおうと「間違いないと思う」と回答いただきました。

2週間後に別の町でカラーマーカーを付けたマガンを撮影し、山階鳥類研究所に回収報告をしました。お礼のメールをいただいた研究員の澤祐介さんに、「珍しい鳥は記録のために報告した方がよいのか? 撮影者が多くなり、付近の人に迷惑をかけないか?」と、質問しました。澤さんは「その鳥がいなくなってから報告し、記録を残してはどうでしょう」という返答でした。そこで「シロいオオタカ」として写真を送ったところ、「亜種シロオオタカの幼鳥」でいいのではと回答いただきました。

マガンの回収報告と関係ないことを調べていただいた澤さんに感謝しています。自分でも調べてみたところ、オオタカの亜種であるシロオオタカは極東ロシアに生息し、記録数が少ないことから、少しでも資料となればと正確な場所を示さず報告することにしました。心残りは動画撮影と飛翔シーンの撮影ができなかったことです。一期一会の野鳥ですが、いつかまた会えるといいなと思います。

2022年度 北海道野鳥愛護会探鳥会記録(2022.4~2023.3)

科・種名	探鳥地	モエ	野幌	宮	藤	野幌	千	鵠	野幌	茨戸	植苗	厚	野幌	福	野幌	石狩	い	野幌	宮	い	野幌	測	野幌	野幌	野幌	野幌	円	ウ	記 録 回 数
		レ	森	島	の	森	歳	川	森	川	川	別	森	移	森	川	かり	森	島	かり	森	山	森	森	森	森	山	ナイ	
		沼	林	沼	沢	林	川	河	林	緑	ナイ	川	林	公園	公園	公園	河	調整	公園	沼	調整	公園	唐	公園	公園	公園	公園	公園	
月	日	4	4	4	5	5	5	5	5	6	6	6	6	6	7	8	9	9	9	10	10	10	11	12	1	2	3	3	
キジ科																													
キジ									●																			1	
カモ科																													
ヒシクイ				●															●									2	
マガン				●															●	●								3	
シジュウカラガン																			●									1	
コハクチョウ	●			●																								2	
オオハクチョウ				●																							●	2	
オシドリ						●				●			●					●										4	
オカヨシガモ	●																											1	
ヨシガモ	●																										●	2	
ヒドリガモ	●						●	●											●		●						●	6	
マガモ	●	●	●	●	●	●		●	●	●		●					●	●	●	●	●		●			●	●	17	
カルガモ			●	●			●	●		●					●			●	●	●	●							10	
ハシビロガモ	●							●											●	●								4	
オナガガモ	●			●														●		●								5	
コガモ	●	●	●														●	●	●	●	●		●				●	10	
ホシハジロ																			●				●					2	
キンクロハジロ	●	●	●			●	●		●				●								●		●					9	
スズガモ																			●			●						2	
ホオジロガモ																											●	1	
ミコアイサ	●																											1	
カワアイサ	●																										●	2	
カイツブリ科																													
カイツブリ			●			●			●				●		●				●	●		●		●					9
カンムリカイツブリ																●	●		●									3	
ハジロカイツブリ																			●									1	
ハト科																													
キジバト			●	●	●	●	●		●	●		●	●	●	●		●	●	●	●								15	
アオバト													●		●													2	
ウ科																													
カワウ	●							●								●												3	
ウミウ																●						●						2	
サギ科																													
アオサギ	●			●	●		●	●		●	●	●		●		●	●		●	●							●	14	
ダイサギ																	●		●	●							●	4	
チュウサギ																	●											1	
コサギ																	●											1	
トキ科																													
ヘラサギ																	●											1	
ツル科																													
タンチョウ																											●	1	
クイナ科																													
オオバン	●																		●									2	
カッコウ科																													
ツツドリ						●	●		●		●	●		●		●												6	
カッコウ										●	●	●		●														4	
チドリ科																													
コチドリ	●																			●								2	
シギ科																													
オオジシギ											●																	1	
タシギ																	●											1	
オグロシギ																	●			●								2	
チュウシャクシギ								●																				1	
ツルシギ																				●								1	
コアオアシシギ																	●		●									2	
アオアシシギ																	●		●									2	

科・種名	探鳥地	モエ レ沼	野幌 森林公園	宮 島沼	藤 の沢	野幌 森林公園	千 歳川	鵠 川河口	野幌 森林公園	茨戸 川緑地	植苗 ウトナイ	厚 別川	野幌 森林公園	福 移	野幌 森林公園	石狩 川河口	いしかり 調整池	野幌 森林公園	宮 島沼	いしかり 調整池	野幌 森林公園	測量山 唐松平	野幌 森林公園	野幌 森林公園	野幌 森林公園	野幌 森林公園	円山公園	ウトナイ湖	記録 回数
	月	4	4	4	5	5	5	5	5	6	6	6	6	6	7	8	9	9	9	10	10	10	11	12	1	2	3	3	
	日	10	17	24	5	8	15	22	29	4	5	12	19	26	10	21	4	11	25	1	9	16	6	4	8	5	5	19	
タカブシギ																	●			●									2
キアシシギ								●																					1
ソリハシシギ																	●												1
イソシギ																	●												1
トウネン																●	●												2
オジロトウネン																	●												1
ヒバリシギ																	●												1
アメリカウズラシギ																				●									1
エリマキシギ																	●			●									2
カモメ科																													
ウミネコ																●					●								2
カモメ	●																												1
オオセグロカモメ							●		●							●					●								4
ミサゴ科																													
ミサゴ																						●							1
タカ科																													
トビ	●		●			●	●	●	●	●	●		●		●	●	●	●	●	●	●	●	●		●	●	●	●	20
オジロワシ						●		●	●	●	●		●		●	●	●								●	●	●		8
チュウビ									●	●						●			●			●							5
ツミ																					●								1
ハイタカ	●																	●	●		●								4
オオタカ			●															●	●		●	●							4
ノスリ	●															●		●			●	●							5
フクロウ科																													
フクロウ																								●					1
カワセミ科																													
カワセミ												●		●				●											3
ヤマセミ						●																							1
キツツキ科																													
アリスイ									●		●																		2
コゲラ		●		●	●	●		●		●		●		●				●			●		●	●	●	●	●		15
オオアカゲラ				●	●	●		●				●		●			●				●		●	●	●	●	●		8
アカゲラ	●	●		●	●	●		●		●	●		●		●	●	●		●		●	●	●	●	●	●	●		18
クマゲラ		●			●																●								3
ヤマゲラ		●			●			●													●		●	●		●			7
ハヤブサ科																													
チゴハヤブサ																		●			●								2
ハヤブサ																			●		●								2
モズ科																													
モズ				●							●		●											●					4
カラス科																													
カケス				●																					●				2
ミヤマガラス																						●							1
ハシボソガラス	●		●	●			●		●	●	●	●		●		●	●			●		●					●	●	14
ハシブトガラス	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		●	●	●	●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	25
シジュウカラ科																													
ハシブトガラ	●	●		●	●	●		●	●	●	●	●		●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	23
ヤマガラ	●	●		●	●	●		●						●			●				●	●	●	●	●	●	●	●	16
ヒガラ	●	●		●	●	●		●									●				●	●	●	●	●	●	●	●	14
シジュウカラ	●	●		●	●	●		●	●	●		●		●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	22
ヒバリ科																													
ヒバリ	●		●				●		●	●			●		●			●	●									●	10
ツバメ科																													

科・種名	探鳥地	モエ レ沼	野幌 森林公園	宮島 沼	藤の 沢	野幌 森林公園	千歳 川	鵠川 河口	野幌 森林公園	茨戸川 緑地	植苗 ウトナイ	厚別 川	野幌 森林公園	福移	野幌 森林公園	石狩川 河口	いしかり 調整池	野幌 森林公園	宮島 沼	いしかり 調整池	野幌 森林公園	測量山 唐松平	野幌 森林公園	野幌 森林公園	野幌 森林公園	野幌 森林公園	円山公園	ウトナイ湖	記録 回数
	月日	4 10	4 17	4 24	5 5	5 8	5 15	5 22	5 29	6 4	6 5	6 12	6 19	6 26	7 10	8 21	9 4	9 11	9 25	10 1	10 9	10 16	11 6	12 4	1 8	2 5	3 5	3 19	
エナガ科																													
エナガ			●				●																●		●	●		●	6
ムシクイ科																													
オオムシクイ											●																		1
センダイムシクイ						●	●	●	●	●	●		●		●														8
メジロ科																													
メジロ							●								●						●								3
センニュウ科																													
シマセンニュウ														●															1
エゾセンニュウ									●	●		●		●															4
ヨシキリ科																													
オオヨシキリ								●		●		●																	3
コヨシキリ								●		●				●															3
ゴジュウカラ科																													
ゴジュウカラ			●		●	●	●		●				●		●			●			●	●	●	●	●	●	●	●	16
キバシリ科																													
キバシリ						●	●																●	●		●			5
ミソサザイ科																													
ミソサザイ																								●					1
ムクドリ科																													
ムクドリ				●						●				●						●									4
コムクドリ										●		●		●		●													4
ヒタキ科																													
クロツグミ						●	●		●		●		●		●														6
ツグミ																									●	●	●	●	5
ノビタキ				●				●		●	●	●	●	●		●									●	●	●	●	8
コサメビタキ							●																						1
キビタキ						●	●		●		●				●			●											6
オオルリ					●		●		●					●															4
スズメ科																													
ニューナイスズメ					●	●	●			●				●															5
スズメ		●		●	●			●		●	●	●		●													●		9
セキレイ科																													
キセキレイ							●																						1
ハクセキレイ		●		●	●		●			●				●			●		●	●									9
セグロセキレイ							●																						1
ビンズイ											●																		1
アトリ科																													
アトリ																								●	●				2
カワラヒワ		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		●	●	●	●		●	●		●			●		●		20
マヒワ					●		●																						2
ハギマシコ																											●		1
ベニマシコ		●								●	●			●															4
ウソ																						●	●	●	●				4
シメ																								●					1
イカル							●		●																				2
ホオジロ科																													
ホオジロ		●			●																								2
ホオアカ								●		●	●	●		●		●	●												7
カシラダカ					●																								1
アオジ			●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		●	●	●		●								17
オオジュリン		●		●				●		●				●															5
観察種類数		34	21	23	27	28	35	26	27	31	27	20	20	24	23	16	36	20	30	29	23	24	22	19	17	17	16	22	
参加者数		42	33	32	42	29	37	20	17	22	29	37	26	30	25	36	54	25	39	31	36	31	37	38	30	38	46	22	

※1 27回実施（8月28日の鶴川河口、11月13日のウトナイ湖、1月21日の小樽港は中止しました）

※2 総観察種 40科 128種、1回平均 24.3種

※3 延参加者数 884人、1回平均 32.7人

2023年度総会報告

日 時：2023年4月12日(水) 午後2時～3時30分

場 所：かでる2・7 110会議室

樋口孝城会長挨拶のあと、議長に栗林宏三氏を選出した。審議のうえ、原案通り可決、承認された。

【会長挨拶要旨】

このような状況下ではあるが、探鳥会の参加者も多く、ほぼ予定した探鳥会が開催できて、大変喜んでいる。完全に元の状態に戻るのはいくらか先になろうかと思うが、幸いに会員が増加して推移しており、参加者の皆さんに、より楽しんでいただける会にすべく、次期の体制を担う人材の養成を図ってゆきたい。

（議事）

1. 2022年度事業報告

〔総務〕

- (1) 野鳥写真展の開催（札幌エルプラザ）
期 間：2022年5月10日(火)～23日(月)
出 展：19名 37点
引き続き6月1日(水)～30日(木)
野幌森林公園自然ふれあい交流館にて実施
- (2) 「北海道野鳥だより」の発送「208号～211号」
- (3) 新年講演会・野鳥写真映写会：中止
- (4) 北海道野鳥愛護会の名前入りカレンダーの
作成・販売：中止
- (5) 定例役員会の開催（毎月1回、計12回）：予定通り
開催
- (6) 傷害保険の更新（対象者 124名 保険料2,505円）

〔広報〕

- (1) 「北海道野鳥だより」の発行「208号～211号」
（野鳥だより編集委員会）
- (2) 北海道野鳥愛護会ホームページの維持・運営
（ホームページ運営委員会）
- (3) 年間予定表配布

〔探鳥〕

- (1) 探鳥会の開催 27回（延参加者数884人 1回平均
32.7人）
- (2) 宿泊探鳥会・小樽港探鳥会：中止
- (3) いしかり調整池環境保全活動
・ 6月22日に花壇の植栽
・ 7月21日に水やり
・ 8月31日・9月4日・10月1日・10月31日に清掃活動

〔その他〕

- ・ 2022年度は各位のご努力により新規会員数が漸増してきており、大変ありがたい傾向

2. 2022年度決算報告

2022年度決算報告書（別掲の通り）

3. 会計監査報告

白澤昌彦監事から適正処理の報告があり、承認

4. 2023年度事業計画

〔総務〕

- (1) 野鳥写真展の開催
期 間：2023年5月10日(水)～23日(火)
午前9時～午後6時
場 所：札幌エルプラザ2F
引き続き野幌森林公園自然ふれあい交流館にて写真展
期間：2023年6月1日(木)～30日(金)
- (2) 「北海道野鳥だより」の発送「212号～215号」
- (3) 新年講演会・野鳥写真映写会の開催
会場・内容未定：9月頃までに詳細を決定
2024年1月13日(土)の実施を計画
- (4) 定例「役員会」の開催（毎月1回、計12回）
- (5) 傷害保険の更新
- (6) 関連団体との協力（野幌森林公園を守る会など）

〔広報〕

- (1) 「北海道野鳥だより」の発行「212号～215号」
（野鳥だより編集委員会）
- (2) 北海道野鳥愛護会ホームページの維持・運営
（ホームページ運営委員会）
- (3) 年間予定表の各施設への配布

〔探鳥〕

- (1) 探鳥会の開催 29回（小樽港探鳥会も実施を計画）
・ 宿泊探鳥会：今年度も中止とするが、次年度以降
不定期開催を含めて検討
- (2) いしかり調整池環境保全活動：継続実施
- (3) 探鳥環境悪化に伴い、植苗ウトナイに代わり茨戸
川緑地を探鳥地とする

5. 2023年度予算

2023年度予算書（別掲の通り）

6. 2023年度役員人事 (留任)

顧問 藤巻裕蔵、小堀煌治、戸津高保
会長 樋口孝城
副会長 富川 徹、栗林宏三、横山加奈子
監事 白澤昌彦、松原寛直
代表幹事 畑 正輔
幹事
(総務) ◎辻 雅司、竹内 強、中村 隆、
畑 正輔(兼)、田中冬彦
(会計) ◎横山加奈子(兼)、原 美保、浜野チエ子

(探 鳥) ◎早坂泰夫、梅木賢俊、門村徳男、
北山政人、道場 優、鷺田善幸、
佐藤ひろみ、富川 徹(兼)、臼田 正(兼)、
栗林宏三(兼)、新城 久、鈴木幸弥、
藤吉 功、大垣 創
(広報) ◎國本昌秀、樋口孝城(兼)、川路則友、
道川富美子、中田達哉、臼田 正、
先崎理之

◎：各担当代表

2022年度 決算書

(収入の部)

項目	2021年度決算	2022年度予算	2022年度決算額	予算比(▲減)	備 考
個人会費	503,000	520,000	520,000	0	前納、後納を含む
家族会費	155,000	150,000	166,000	16,000	
団体会費	5,000	5,000	5,000	0	
活動収入	1,500	111,000	0	▲111,000	
雑収入	21,701	1,789	2,500	711	役員会中止等還付金
寄付金	6,000	10,000	0	▲10,000	個人寄付
小 計	692,201	797,789	693,500	▲104,289	
繰越金	258,933	232,211	232,211	0	
合 計	951,134	1,030,000	925,711	▲104,289	

(支出の部)

項目	2021年度決算	2022年度予算	2022年度決算額	予算比(▲減)	備 考
印刷費	422,836	388,000	388,080	80	野鳥だより印刷費他
通信費	196,979	161,000	157,416	▲3,564	会報発送費、切手代、ホームページ維持費
会議費	40,600	42,100	37,500	▲4,600	役員会、総会会場費
活動費	8,100	94,000	0	▲94,000	
消耗品費	5,208	25,000	21,326	▲3,674	事務用品他
事務所費	40,000	40,000	40,000	0	事務所費用
傷害保険費	5,200	2,500	2,505	5	保険代
雑費	0	10,000	0	▲10,000	設備利用料他
予備費	0	267,400	0	▲267,400	
基金積立					
小 計	718,923	1,030,000	646,827	▲383,173	
次年度繰越	232,211		278,884		当年度余剰金
合 計	951,134	1,030,000	925,711	▲104,289	

2023年度 予算書

(収入の部)

項目	2023年度予算	2022年度決算	増 減	備 考
個人会費	530,000	520,000	10,000	前納、後納を含む
家族会費	141,000	166,000	▲25,000	
団体会費	5,000	5,000	0	
活動収入	143,000	0	143,000	講演会、小樽探鳥会
雑収入	2,116	2,500	▲384	利息他
寄付金	10,000	0	10,000	個人寄付
小 計	831,116	693,500	137,616	
繰越金	278,884	232,211	46,673	
合 計	1,110,000	925,711	184,289	

(支出の部)

項目	2023年度予算	2022年度決算	増 減	備 考
印刷費	390,000	388,080	1,920	野鳥だより印刷費
通信費	163,000	157,416	5,584	会報発送費、切手代、ホームページ維持費
会議費	40,600	37,500	3,100	役員会、総会会場費
活動費	110,000	0	110,000	会場費、バス代
消耗品費	24,000	21,326	2,674	事務用品他
事務所費	40,000	40,000	0	
傷害保険費	18,000	2,505	15,495	保険代
雑費	10,000	0	10,000	設備利用料他
予備費	314,400	0	314,400	
基金積立	0	0	0	
小 計	1,110,000	646,827	463,173	
次年度繰越金	0	278,884	▲278,884	
合 計	1,110,000	925,711	184,289	

積立基金特別会計

(2022年度収支決算) (2023年度収入予算)

項目	金額	項目	金額
積立金	289,990	積立金	289,990
一般会計より繰入	0	一般会計より繰入	0
収入(記念誌販売)	0		
差引合計	289,990	合 計	289,990

会 員 数

	2019. 4. 1	2020. 4. 1	2021. 4. 1	2022. 4. 1	2023. 4. 1
個人	261名	252名	238名	246名	262名
家族	132名(59家族)	135名(60家族)	120名(53家族)	117名(51家族)	113名(50家族)
団体	1会員	1会員	1会員	1会員	1会員
合 計	394名	388名	359名	364名	376名



円山公園

2023. 3. 5

札幌市中央区 原 美保

円山公園探鳥会は、ウソに会えると楽しみに出かけます。今年はいいお天気で、寒くなく探鳥日和でした。最初に池に向かいます。途中の木々の上の方にカラ類がいますが、探すといつも首が痛くなります。池は水面が少し開いていましたが、マガモは雪の上で休んでいました。

北一条通りに出て、第二鳥居をくぐり、左手の道を梅園、桜園に。時間を取って沢山の目で探したけど、とうとうウソは出てくれませんでした。参道ではハシブトガラ、ヤマガラが近くで見られ、エゾリスが来てくれて、残念な気持ちを慰めてくれました。

その後も鳥の姿は少なく、黙々と動物園まで行き、木道を降り、広場を渡り、少し山を上った所にある慰霊碑まで行きました。前回はここで色々見られたのにやはり駄目かと思ったら、円山公園に詳しい幹事さんがもっと先まで案内してくれ、なんとハギマシコを見つけてくれました。



ハギマシコ 齋藤佑朱さん撮影

少し遠かったけど、カツラの木に数羽が見えました。足元が悪くて、スコープを見せてもらうのに、移動するのも大変という場所です。そのうちに何かに驚いて飛んだら大群でした。近くに降りたというので慰霊碑まで戻り、そこでまたじっくり見ることができました。終わり良ければ全て良しではありますが、ウソも見なかったなと思いながら帰途につきました。

私は会計幹事をしています。円山公園は交通アクセスがよいので、他の探鳥会は行けないけどここだけは来るとおっしゃって、会費を払ってくださる方がいらっしゃいます。3月末に沢山の方が振込をしてくださいますが、支払いの場として定例探鳥会もぜひご利用ください。

【記録された鳥】マガモ、トビ、コゲラ、アカゲラ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ハシブトガラ、ヤマガラ、ヒガラ、シジュウカラ、ヒヨドリ、ゴジュウカラ、スズメ、カワラヒワ、ハギマシコ、ツグミ 以上16種

【参加者】青木あけみ、荒木良一、今村三枝子、臼井奈津子・迦、臼田 正、北山政人、久保宏幸、栗林宏三、小島俊幸、齋藤佑朱、佐藤直美、杉山次郎、鈴木幸弥、高橋きよ子、竹中悦子、千坂野梨子、辻 雅司、坪田亜希子、道場 優、豊口笑子、鳥谷峰 修・由紀・心、成田光子、

西窪翠子、畑 正輔、鉢呂まゆみ・星音、早坂泰夫、原美保、平澤路生、藤田 潔、辺見敦子、本間康裕、前田美紀枝、前寺博篤・恭代、松原敏子、水上正幸、宮崎恵子、本杉政司・朋子、山本昌子、横山加奈子、吉田慶子 計46名
【担当幹事】臼田 正、鈴木幸弥、原 美保

ウトナイ湖

2023. 3. 19

湖岸を歩くとヨシガモなどが見られ、青空にはオジロワシ。タンチョウも飛びました。ネイチャーセンターの駐車場では、エナガをじっくり観察できました。



エナガ 大垣 創さん撮影

【記録された鳥】オオハクチョウ、ヨシガモ、ヒドリガモ、マガモ、コガモ、ホオジロガモ、カワアイサ、アオサギ、ダイサギ、タンチョウ、トビ、オジロワシ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ハシブトガラ、ヤマガラ、シジュウカラ、ヒバリ、ヒヨドリ、エナガ、ゴジュウカラ、ツグミ 以上22種

【参加者】会川 隆、市橋栄二、岩崎智代、臼田 正、大垣 創、川端 純、久保宏幸、近藤章子、斎藤貴子、新城 久、杉山次郎、辻 雅司・方子、土田敏子、鳥谷峰修・心、西窪翠子、畑 正輔、早坂泰夫、丸勢文現・亜希子、鷺田善幸 計22名

【担当幹事】辻 雅司、鷺田善幸

野幌森林公園

2023. 4. 23

札幌市南区 齊藤 律子

夏鳥が続々と渡って来るこの時期は、どの公園へバードウォッチングに出掛けようか迷ってしまいます。今回は探鳥会が開催される野幌森林公園へ行くことにしました。この公園は鳥見を始めた年にフクロウを見た印象深い場所です。ワクワクしながら車に乗り込みました。

集合場所に到着しますと、3週間前に訪れた時には見られなかったエゾエンゴサクが开花しており、季節の移り変わりを感じました。

時間となり、幹事の方を先頭に森の中へと出発です。すぐに鳥のさえずりが聞こえ、枝の中を動く姿も見えます。双眼鏡で確認しながら時々足元の山野草も鑑賞しました。

常連のカラ類のほかウグイスの声が聞こえ、ハイタカの姿も見えましたが、この日は特にゴジュウカラとコゲラがたくさん見られました。

嬉しかったのはベニマシコが遊歩道沿いに現れてくれたことです。細かい枝間を飛び移っていなくなりました。しばらく歩いた後で開けた場所に出たら、再び先ほどのベニマシコが遠くの木にとまっているのが見えました。お腹がふっくらして可愛いメスです。姿は小さいですが何とかカメラに収めることができました。

後半にはレンジャクの群れが見られました。3週間前も同じ場所で観察しましたが、数がずいぶんと増えていました。図鑑を調べると北海道ではキレンジャクの群れにヒレンジャクが少し交じる程度だそうです。この群れもそうでした。年によってはヒレンジャクの飛来数が多いこともあるようです。私は今までヒレンジャクの方をよく見てきたので、そういう年だったのかもしれない。



キレンジャク 藤吉 功さん撮影

本会の探鳥会に何度か参加しましたが、今回もベテランの方々に教えていただきました。これからも勉強を続けて野鳥を見つける力を身につけていきたいです。雨が降ったり雪もちらついたりする天候の中、たくさん歩き万歩計は13,000歩を超えました。目当てのフクロウなどには会えませんでした。それは次の楽しみにしたいと思います。

【記録された鳥】オシドリ、マガモ、コガモ、キンクロハジロ、カイツブリ、キジバト、トビ、ハイタカ、コゲラ、アカゲラ、ヤマゲラ、ハシブトガラス、ハシブトガラ、ヤマガラ、ヒガラ、シジュウカラ、ヒヨドリ、ウグイス、キレンジャク、ヒレンジャク、ゴジュウカラ、キバシリ、アカハラ、ツグミ、カワラヒワ、ベニマシコ、アオジ 以上27種

【参加者】青木武男・あけみ、市橋栄二、大表順子、大橋路子、久保宏幸、栗林宏三、小西美美枝、齊藤潤太郎・律子、斎藤貴子、佐川健次、佐藤郁子、佐野純子、杉山次郎、辻雅司・方子、道場 優、富川 徹、鳥谷峰 修・心、納屋明美、西窪翠子、畑 正輔、林 仁子、福士一徳、藤田 潔、藤吉 功、辺見敦子、松原寛直・敏子、水上正幸、武藤幹太・大翔、森田康志、横山加奈子、吉田 功・美子、吉田慶子、吉田久子、吉永和世 以上41名

【担当幹事】栗林宏三、藤吉 功

宮 島 沼

2023. 4. 30



ハイイロヒレアシシギ 北山政人さん撮影

ヒシクイはすでに北上し、マガンは2万羽ほど。カンムリカイツブリ、ハイイロヒレアシシギが見られました。

【記録された鳥】マガン、コハクチョウ、オオハクチョウ、ヨシガモ、ヒドリガモ、カルガモ、ハシビロガモ、オナガガモ、シマアジ、コガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、スズガモ、カイツブリ、カンムリカイツブリ、キジバト、アオサギ、オオバン、セイタカシギ、ハイイロヒレアシシギ、トビ、オジロワシ、チュウビ、ハイタカ、アリスイ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、シジュウカラ、ヒバリ、ウグイス、ムクドリ、コムクドリ、ツグミ、ノビタキ、ニュウナイスズメ、ハクセキレイ、カワラヒワ、アオジ、オオジュリン 以上39種

【参加者】石塚 肇・鈴子、伊藤知佳子、井上 剛、白田正、大道 彰、北山政人、熊谷明史、栗林宏三、近藤章子、佐藤ひろみ、辻 雅司・方子、富川 徹、中田勝義、畑 正輔、早坂泰夫、林 仁子、樋口孝城、山崎 悟 以上20名

【担当幹事】栗林宏三、佐藤ひろみ

※4月16日のモエレ沼は雨天中止としました。



表紙の鳥

キクイタダキ

冬になると、針葉樹が密になっている「帯広の森」でキクイタダキが見られます。11月から3月まで、他の小鳥たちと行動を共にし、越冬しているのです。

今年の3月17日、この日も小鳥の群れを探して、一緒にいたキクイタダキを見つけました。ところがいつもと様子が違います。針葉樹にいませんでした。さらに2組のペアに分かれ牽制しあっています。そろそろ越冬も終わり山に帰る日が近づいたね、と春を感じながら撮った1枚です。 吉川 健一 (帯広市)

環境変化に伴う植苗ウトナイ探鳥会の終了に寄せて

日本野鳥の会苫小牧支部長 鷺田 善 幸

211号で告知しましたが、植苗ウトナイ探鳥会は植生環境の変化により、昨年6月の開催を最後に終了しました。探鳥会幹事を務めてきた鷺田善幸さんの寄稿です。



1980年代の植苗ウトナイの探鳥会

植苗ウトナイ探鳥会は、1971年6月5日に行った第1回から2022年6月5日まで計47回実施されました。天候不良やコロナ禍で中止になった年が5回あります。

私が初めて参加したのは、1995年6月11日の第25回目でした。その時は草原でシマアオジがさえずっていました。私はそれから20回ほどの参加となります。

苫小牧市郊外のJR植苗駅前から舗装された市道植苗停車場線を歩き、途中から未舗装の雑木林の中をたどり、草原と灌木林沿いを通り、美々川河口近くのウトナイ湖畔までの約1.5kmの探鳥コースでした。ウトナイ湖野生鳥獣保護センターからウトナイ湖サンクチュアリネイチャーセンターまでの探鳥コースであるウトナイ湖北側のウトナイ湖探鳥会に比べ、舗装道路沿いの林と草原の環境がありました。初期は、シマアオジが普通に見られ、オオジシギ、アカモズ、ヒバリ、コヨシキリ、ノビタキ、ホオアカなどの草原性の鳥がよく見られました。シマアオジが見られたのは2002年の探鳥会が最後でした。



植苗ウトナイのシマアオジ 1996.6.9
山田良造さん撮影

かつては湖畔へ抜ける道の両側が1m位の低い灌木と草原でしたが、灌木が成長し2m位になって見通しがきかなくなり、草原の大部分が灌木林になってきました。そのため草原性の鳥が減ってしまいました。

2019年に市道植苗停車場線沿いの東側の雑木林が400m位伐採されていました。センダイムシクイやキビタキがよく見られましたが、伐採後は数が減ったようです。

2017年から2022年は、日本野鳥の会苫小牧支部と共催となりました。苫小牧支部の探鳥会を増やそうということになり、私が2007年から北海道野鳥愛護会の探鳥会幹事をしていたので共催させていただきました。苫小牧支部員は毎回5、6名参加していました。

湖畔への道は、以前カヌー乗りの人が通っていましたが、その人たちが通らなくなり、道沿いの灌木の枝が張り出したり、草に覆われたりして荒れ果てて歩行困難になりました。

環境の変化により草原性の鳥が出現しなくなったことと、湖畔への道が荒れて歩行困難になったことが植苗ウトナイ探鳥会を中止した理由です。

愛護会創設のころから実施されていた植苗ウトナイ探鳥会が終了になったのは大変残念です。



植苗ウトナイの最後の探鳥会
かつての草原は低灌木に覆われている 2022.6.5

※本稿は北海道野鳥愛護会が2021年3月に発行した「私たちの探鳥会」(p 34～p 42)と、2020年6月発行の北海道野鳥だより第200号(p 4、p 15)を参考にいたしました。



【野幌森林公園】

2023年7月9日(日)、9月10日(日)
野幌森林公園も7月と9月とではそれぞれ異なる趣があります。大沢園地で昼食をとり、大沢口に戻るのは13:00ごろになります。

集 合：野幌森林公園大沢口 9:00

交 通：JRバス 新札幌駅発(文京台循環線新83)
「文京台南町」下車 徒歩10分

【石狩川河口】2023年8月20日(日)

石狩浜・河口で主にシギ・チドリ、草地ではホオアカやノビタキなどを楽しまします。はまなすの丘公園ビジターセンターの前から浜に出て河口まで砂浜を歩きます。河口からは石狩川に沿って戻ります。12:00ごろに駐車場で鳥合わせをして、解散します。

集 合：はまなすの丘公園ビジターセンター駐車場
9:30

交 通：中央バス 札幌ターミナル発(石狩行)
「石狩」下車、徒歩20分

【鶴川河口】2023年8月27日(日)

鶴川河口付近の自然干潟や人工干潟で主にシギ・チドリを観察します。11:30ごろに人工干潟付近で鳥合わせをして、解散します。

集 合：道の駅むかわ四季の館駐車場 9:30

交 通：JR鶴川駅下車 徒歩10分(道南バス札幌発浦河行き「高速ペガサス号」早朝便はありません)

【いしかり調整池】2023年9月3日(日)

この時期、いしかり調整池にやってくるシギ・チドリを主に観察します。また、水鳥を狙って猛禽類もやってきます。11:30ごろに鳥合わせをして、解散します。

集 合：いしかり調整池駐車場 9:30

交 通：公共の交通機関はありません。

【宮島沼】2023年9月24日(日)

秋のマガン渡来のピークを迎えます。ヒシクイ、ハクチョウ、カモ、カイツブリ類などの姿も見られます。時には猛禽類が上空にあらわれ水面の水鳥たちが一斉に飛び立つ場面なども見られます。11:30ごろに鳥合わせをして、解散します。

集 合：湖畔 10:00

交 通：中央バス 岩見沢ターミナル発(月形線21番)
「大富」下車 徒歩15分

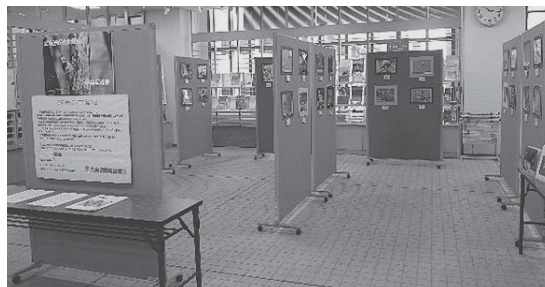
☆雨具、観察用具、筆記用具などお持ちください。

☆悪天候で中止の場合があります。

☆問い合わせ 北海道自然保護協会 011-876-8546
10:00~16:00(土日、祝祭日を除く)

鳥 民 だ よ り

◆2023年度 野鳥写真展 出展者・作品◆



5月10日(水)~23日(火) 札幌エルプラザ2F

市橋	栄二	・	・	・	センダイムシクイ、ヒガラ
臼田	正	・	・	・	ハイタカ、オオソリハシシギ・ツルシギ
大垣	創	・	・	・	スズメ、キクイタダキ
大西	智子	・	・	・	ノゴマ、バン
鎌田	要子	・	・	・	ヤマセミ、ノビタキ(巣立ち雛)
近藤	章子	・	・	・	ヘラシギ、アマサギ
佐伯	武美	・	・	・	ミヤマホオジロ、クマゲラ
佐川	健次	・	・	・	ツグミ、キビタキ
佐藤	ひろみ	・	・	・	ヘラサギ、カナダヅル
品川	睦夫	・	・	・	ツグミ、カケス
高島	均	・	・	・	エナガ、アカアシシギ
高橋	良直	・	・	・	マガン、ハクガン
辰巳	研一	・	・	・	キクイタダキ、ユキホオジロ
辰巳	昌江	・	・	・	ヘラシギ、アカハラ
富川	徹	・	・	・	チョウセンメジロ、オジロワシ
中村俊太郎	・	・	・	・	コルリ、オオワシ
中村	隆	・	・	・	ヤマセミ、フクロウ・アカゲラ
早坂	泰夫	・	・	・	フクロウ、カッコウ
平澤	路生	・	・	・	キクイタダキ
藤吉	功	・	・	・	エナガ、カワラヒワ
武藤	幹太	・	・	・	ウズラ、オオジシギ
吉川	健一	・	・	・	カワアイサ(親子)、エナガ(幼鳥)

以上22名43点

※野幌森林公園自然ふれあい交流館で6月30日まで展示後、
当会HP「Photo Album→WEB版野鳥写真展」で閲覧可能。

【新しく会員になられた方々】

荒木	良一	(札幌市東区)
小川	大和	(千歳市)
石川	恵子	(札幌市豊平区)
斎藤	貴子	(札幌市厚別区)
辻	由美・祥子	(札幌市手稲区)
樋田	耕治・志津子	(千葉県松戸市)
佐藤	郁子	(札幌市厚別区)
納谷	明美	(札幌市厚別区)
齊藤潤太郎	・律子	(札幌市南区)
瀧本	薫	(千歳市)
佐々木	章人	(北見市)
佐藤	直記・博子	(札幌市北区)

【北海道野鳥愛護会】 年会費 個人 2,000 円、家族 3,000 円(会計年度4月より)

郵便振替 02710-5-18287

〒003-0026 札幌市白石区本通1丁目南2-38 北海道自然保護協会気付 北海道野鳥愛護会 ☎(011)876-8546

HPのアドレス <https://aigokai.org>